

個人山行報告書

通 算 山 行 No.	NO・	報告者	加藤 秀子
年月日及び曜日	02年9月13日(金)～年9月15日(日)	天 候	晴
山 行 名	中央アルプス・紅葉の沢登り		
山 名	中アルプス・西横川		
この山の セールスポイント	開けた明るい沢筋に、連続するスラブ滝、 ナメ滝は美しく快適そのもの。ああ感動・・・		
コース 及び タイム	起床5:00ーバス6:00ーしらび平7:20ー中御所橋7:30 ー入渓7:45ー横手道10:45ー千畳敷11:30ーしらび平14 :00		
標 高 差	△中御所橋～横 手道＝約1000m	体力度	1 2 3 4 ⑤ 6
	▼横手道～千畳 敷＝0m	技術度	1 2 3 4 ⑤ 6
走 行 距 離	事務所～駒ガ根 ＝約250Km	展望度	1 2 3 4 ⑤ 6

参加者・ひとこと

CL：後藤隆徳＝花崗岩が美しい、かなり急な沢だ。

加藤秀子＝初めての中アの沢。次回は中御所だ。

千畳敷ロープウェイ駐車場から少し戻った一つ目の橋(中御所橋)の脇から入渓する。大きいゴロゴロした岩や流木が、沢筋にこんもりと堆積し足場が悪い。しかし遡行して行くとスラブ滝、ナメ滝と間断なく素晴らしく美しい滝が続き、じつに快適なフリクション^も楽しめた。全体的にザイルの必要はなく、一度も使う事はなかったが、だからと言って簡単な沢というわけでもない。ナメの上に生えた草付きを這い上がる時の緊張感。高度感のあるナメをフリクションで登る足裏感覚。「どうぞ。滑り落ちないように。神様お願い」と心の中で、思わず願ってしまう場面も随所にあった。しっかりした三点確保、バランス感覚が必要な沢である。

表裏一体のスリルを充分味わい、ダイヤモンドソウの可憐な花も愛で、沢筋の狭くなった所でヒョイと長谷部新道に出た。登山隊の長岡に無線を入れると、下山途中だという。急いで着替えをして、千畳敷ロープウェイに向かった。ガスが出始め寒い。道の両脇を埋めるナナカマドの、葉の緑と真っ赤な実の対比がとてもきれいで暫し見惚れる。ガスの切れ間にカールがチラホラ見えるが、紅葉は今いちか。

長谷部新道のロープウェイ道分岐点で、焼肉の匂いが鼻をくすぐった。ふと見ると南信濃村の3人組が熱燗片手に一杯やっているではないか。こちらら沢から上がって体が冷え切りとても寒い。初対面だが、ヤアヤア。随分美味そうですねェ～と、さり気なく声を掛けしっかりと仲間に加わった。山を愛する人はいいい人ばかりだ。長岡と合流し、温泉に入り、次の予定地御岳山へとテン泊地を求めて車を走らせた。



山 名	御岳山・鈴ガ沢 (2400m) まで	後藤 隆徳
-----	--------------------	-------

**最後の最後まで息を抜かせず
楽しめる超美溪**

9 / 15 (曇り) 2日目	起床4:00-キャンプ地発5:20-鈴ガ橋(ゲート)5:50-東股橋6:30-入溪6:50-大滝上7:30-トンネル滝8:10-上ノ大滝9:20-縦走路(2400m)12:30-田ノ原13:20	
標高差	△東股橋1370m~縦走路2400m=1030m ▼縦走路2400m~田ノ原2200m=200m	
走行距離	下土狩 ~ 駒ガ根=約250Km	体力度=5・技術度=5・景観度=6
今日の一言	御岳山 後藤=本音でこんなナイスな沢があるなんて!(絶句) 加藤=サイコー!!!言うことはありません。	

昨夜のテン泊地は暗く、静かで、水洗トイレがあり、雨が降っても絶対濡れない完璧な場所だった。勿論、無料だ。

前夜もそうだったが、我々の快適なテン泊地を探す「才能」は超一級である。

また、各地に「常宿」を確保してあることは大きな「財産」である。

まだ暗い早朝、加藤が例の沢スタイルで民家に道を尋ねに行く。主人は覗き驚いて、戸を開けなかったそうだ・・・。(笑い)

鈴ガ橋のゲートで田ノ原から御岳山に登る長岡・来生と互いの健闘を誓い別れる。林道を40分で入溪点の東股橋に着いた。ここで支度を整え遡行開始。

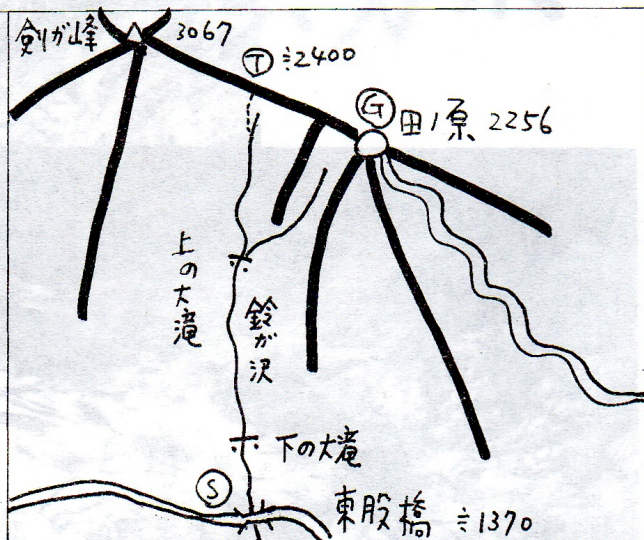
ガイドブックでは東股橋手前の三沢橋から入溪する案内もあるが、どう見てもただの「川」で面白くなさそう。快適な美しい岩床を行くと最初の大滝が現れる。遠くからだと50m位に見えるが、実際は3段で構成されている。

左からボロボロの泥壁を登る。小さな尾根を越えて落口に立つ。ここからは「今まで経験のない位」の美しスラブ(岩床)が延々と続く。

岩は溶岩(正式名称不明)で噴火時流れた様な「岩紋」が見える。それが逆層で結構、登り難い所もある。また、溶岩は柔らかい性質か滝の「釜」が異常に発達し底が見えず泳ぐなど、とても怖くて出来たものでは無かった。

途中には滝の釜がそのまま岩床の中に消えている不思議な場所もあった。ドドドと落ちている水流がそのまま、何処へ消えているのだ。そんな所で落ちようものなら永遠に「拉致」されてしまうので、恐ろしくてソロソロと巻いた私達でした・・・。(笑い)

ウンザリする程、綺麗な岩床を歩くと「上の大滝」が現れる。左岸を巻いて滝上に出て、藪を漕ぎ再び沢に降り立つ。ガイドブックはここから右の沢に降りて田ノ原



への道路に出るとのことだが、私達はあくまで本流を遡行した。

しかし、それが如何に大変か数時間後に分かった。本流はそこから、またしても延々と岩床を続け結局、2400mの御岳山縦走路下まで遡行した。

田ノ原で待つ長岡・来生を意識して飛ばす。途中で「講」登山の人々に会った。全員「水干」を装い、テープから流れる祝詞（のりと）を受けていた。

田ノ原で加藤が求めた芳ばしい「醤油モロコシ」を頬張り、今山行を終えた。何と素敵な沢だった事か・・・・。

自然の記述・反省・その他・・・

1. 是非、皆に上って貰いたい沢だ。
2. 大・小の「ウォーター・ホール」は凄く、恐い。
3. 沢の回りはモミ・ツガの奥深い原生林が広がる。
4. 縦走路は「人・人・人」で極端。
5. やっぱり、2400mまで詰めたい。
6. 夏の御岳山は初めてだったが、それはそれで良かった。

